

平成 17 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」



小 山 剛 （こやま つよし）

社会福祉法人長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園・園長
1955（昭和 30）年 2 月 17 日生

【授賞理由】

小山氏が行っている切れ目のない介護サービスは、高齢者の在宅での生活を可能にしたばかりでなく、新潟中越地震時の仮設住宅敷地内におけるサポートセンターの設置とその活動は地域における支援のあり方並びに災害時における支援活動の規範となった。その活動に対し、本賞を授与するとともに、今後ますますの活躍を期待するものである。

【略 歴】

1977 年 3 月	東北福祉大学卒業
1977 年 4 月～1979 年 3 月	知的障害児更正施設あけぼの学園
1979 年 4 月～1982 年 3 月	重症心身障害児施設 長岡療育園
1982 年 4 月～現在	特別養護老人ホーム こぶし園

【業績および功績】

1. 研究事業：

「痴呆疾患ケア・システムに関する研究」1996 年 長寿科学総合研究事業（厚生省）

「痴呆性高齢者の暮らしを支援する新たな地域ケアサービス体系のあり方に関する調査研究」2003 年（医療経済研究機構）

2. 報 告：

「痴呆ケアの新しい道をさぐる；ソーシャルワークの立場から」2001 年第 2 回全国痴呆ケア学会シンポジスト（三重，四日市）

【功績・社会貢献】

1. 新潟県痴呆高齢者グループホーム協議会代表

平成 8 年に、県内で最初のグループホームを立ち上げ、平成 12 年には当時開設していた県内 8 施設で新潟県痴呆高齢者グループホーム協議会を代表として立ち上げ、現在会員も 100 施設に拡大し、代表も継続している。今秋には県内グループホームの状況を紹介するガイドブックを発行して地域社会への認知に役立てる予定。

2. 徘徊操作システムの開発

小規模のグループホームにおいて、徘徊による行方不明時の捜索は困難であり、利用者の安全を守るための徘徊捜索システムを開発した。内容は利用者が不明になった段階でその人の情報（顔写真・服装・不明時の状況など）を協力者（当センター関連では 200 名）の携帯電話にメール送信（自動）するもので、利用者の状況把握人数の少ない小規模サービスにおける捜索に役立てるためのものです。